視察報告書

委　員　会　名	建設産業常任委員会						
視　察　日　時	平成２６年１０月９日（木）　１０時００分　～　１１時３０分						
視　　察　　先	市町村名	郡山市	人口	329,055 人	面積	757.06ｋ㎡	
視　察　項　目	中心市街地活性化に関する調査						
視察参加議員	田原耕一、寺﨑強、伊藤千代子、中村進、那須英仁、波多江貴士、藤井芳広						
視察随行職員	友岡卓也						

視察概要

郡山市の地理的位置は、福島県の中央付近で猪苗代湖の東に位置する。県内1位の人口を擁し、事業所数4734か所で経済分野でも福島県内で第1位である。過去には県庁候補地ともなったこともあり、2014年は、市制施行から90周年、合併から50年という節目の年を迎えている。

JR東日本郡山駅の西側に広く商業施設があり広範囲に８商店街が形成されている。この中心的な商店街にも空き店舗はあるが誘致に力を入れている。そのもっとも成功した例は、商店街の核となっていたデパートが撤退した時に直ぐさま、高級優良店舗として高級デパートを誘致したことである。

今回の視察地は、駅前商店街と中央通り商店街の両商店街が協力して取り組んでいる「一店逸品運動」を視察研修した。この運動は、静岡呉服町名店街が発祥であるが郡山市の隣地二本松市でも取り組まれており、それを参考とされた。商店街連合会の若者グループの積極的な活動により、この運動へのきっかけができ、「個々のお店が元気でなければ街は元気になれない」との信念のもと、取り組まれている。ほとんどの活動費は自費でまかなわれており、行政や商工会議所からの公的資金の補助はきわめて小さいという。元々、福島県の中心地を標榜する気質からか自ら立つ意識は高く「個店」の店主同士の意見交換もお店の内容に及ぶことはなかった。２年前から、この「一店逸品運動」を取り組むことにより「個店」の魅力と問題点を消費者の視点から、互いに意見を出しあって、そのお店の自慢の「一店逸品」をつくりあげていった。来店するお客様に胸を張って紹介したり、専門知識を披露することで信頼とリピーターを増やしつつある。この運動の明確な成果は、まだ現れていないが震災直後に減少していた人口もようやく元に戻りつつある中、新しい商店街の連帯した店主達が、この「一店逸品運動」会員の増強に勤めている。

意見（本市にとって活用すべき事項・課題など）

福島県中央を形成する商店街で若い店主同士の、互いの店の善し悪しを忌憚なく意見交換できるという環境ができたことを千載一遇のチャンスとした。震災の上に放射能被害、さらに風評被害に悩まされ、「人もこのあたりも一変しました」との小さな声で聞こえた説明が耳底に残る。我が商店街は唐津街道筋と前原駅を中心にした商店街である。そこに空き店舗が増え、核となるスーパーもなくなり空洞化が進んでいるが、祭りや人の交流など、すでに下地はあるため、若き店主たちの火を見る意見交換から再生ののろしを期待する。